

フェアリーテールによるこそ

作 ルーシー・ラブグッドウィル

## ■登場人物

モリ

ダシチャヅケ

ネジマキ

サカナ

トリ

ホネ

サル

## 1 現在

暗い倉庫のような部屋。段ボールに入った食料の備蓄があり、大きな金属製のタンクや、おそらくサーバーであろう記録装置が所狭しと置かれている。その部屋唯一の出入り口である重たい扉が開き、モリが現れる。すぐに扉はしまり、頑丈に施錠される。

モリは大きな荷物を肩から下げている。両手には白い直方体と、ゴテゴテとしたVRゴーグルを抱えている。ひどく疲れた様子。

モリはゴーグルを頭に付け、そこから流れる映像を見る。

## 2 フェアリーテール

ダシチャヅケが風の吹きさらす荒野にたたずんでいる。

はたと何かの気配に気がつき、耳をこらす。右かな？左かな？ダシにはわからない。

ダシチャヅケのテーマを歌う。

くダシチャヅケのテーマく

背中見たあの夢

光の霞に

閉ざされた夢

白い扉に拡がった

ここにはあるの

ここから始まるの

どこまでも続く

どこまでも続く

光の片隅に残された

歌いおわるとモリが滑り込んでくる。

ダシチャツケ（以下ダシ） ……

モリ あれ？

ダシ なに？

モリ ドコココ？

ダシ ようこそフェアリーテールに。

モリ フェアリーテール？

ダシ そそ。初めて？

モリ うん。

ダシ 誰にでも初めてはあるからしてですね、えー、ん？

モリ で、ドコココ。

ダシ （棒読み）ヨウコソフェアリーテールに。

モリ ここはフェアリーテール。

ダシ そそ。ここがフェアリーテール。歓迎するよ。

モリ 聞いたことある。

ダシ 誰もが知ってて、誰もがこれる場所。だけどそれは、子供のころだけ。大人になってやってこれる人間はそんなにいないんだ。

モリ そうなんだ。

ダシ あなた人間だね。わかっちゃうよー。

モリ あなたは？

ダシ ダシチャツケ。

モリ 出汁茶漬け？出汁だか茶だかもはやわかんないけど、茶漬けつてもものが一つの概念だとするとまあ許せなくもない食べ物のあれかな？

ダシ そう私はダシチャヅケちゃん。  
モリ ダシチャヅケさん？  
ダシ かわいいでしょ。  
モリ わかんないけど。  
ダシ よろしく。  
モリ こちらこそ。  
ダシ にひ。  
モリ ここに住んでるの？  
ダシ まさか。こんな湿っぽいところ。旅してるの。あんたは？  
モリ 湿ってる？からっからの荒野じゃんか。  
ダシ 比喻じゃん。比喻たんじゃん。もしかして言葉の裏読めない人？  
モリ どこだよここ…。  
ダシ あなたの名前なんていうの？  
モリ 名前、名前、名前、  
ダシ シヤークスピアかよ。  
モリ なんだそのB級サメ映画っぽいタイトル。  
ダシ シヤーク、シヨーク、シヨーシヤンクだっけ？  
モリ シェークスピア？  
ダシ そう。シェークスピア。  
モリ 私の名前はシェークスピア。  
ダシ 偉人じゃん。  
モリ 私偉人なの？  
ダシ それは後世の人が決めることだ。  
モリ 偉そうにぶりやがって。  
ダシ はあ！自称シェークスピアが言うの？出るとこ出ようか？  
モリ ちよつとまって。私たぶんシェークスピアじゃない。  
ダシ 名前なんかどうでもいいんだけどね。  
モリ もう少しで思い出しそうなんだが。  
ダシ 記憶喪失かい？  
モリ そうかも。何かすごい大事なこと忘れた。  
ダシ 情けない奴だ。  
モリ あんた失礼だね。  
ダシ 何も覚えてないプカンピーなんか怖くないぷー。

モリ あ、モリ。  
ダシ 森。  
モリ 私の名前。モリ。  
ダシ そうか。よろしく。  
モリ ネジマキ。  
ダシ はん？  
モリ なんだっけ？  
ダシ わからないけど。  
モリ ここまで出かかっているけど、なんだったか。  
ダシ 思い出せないって事は大したことないって事だ。振り返るのやめよう。  
モリ でもどうしよう。  
ダシ ネジマキ気になる？  
モリ そういわれると、どうでもいい気がしてきた。  
ダシ じゃあネジマキは置いてこう。先に進もう。私だっていつまでもモリに付き合っていられないよ。  
モリ でも、どうしろって急に言われても。  
ダシ ここに住んじやう？  
モリ まさか。私は……。あー。  
ダシ 帰りたい：、わけじゃなさそうね。  
モリ 帰らないといけない。仕事が残ってる。  
ダシ どうやらワケアリだね。ヒュー（口笛のつもりだが吹けてない）。  
モリ ヒュー（しっかりとした音で口笛を吹く）。  
ダシ （ひどく感心して）うわぁ。  
モリ 帰りがた知ってるの？  
ダシ いったって帰れるし、いったってこれる。だってここは（棒読みで）ヨウコソフエアリーテールに。  
モリ ふざけてるの？  
ダシ そんな焦らないで。どうせ一晩ほどのバカンスだから。気楽にやんなよ。  
モリ 早く戻らないといけないの。私にしか出来ない仕事が残ってる。  
ダシ わかったわかった。でも帰れないよ。  
モリ さっきいつでもこれるって言ったじゃん。  
ダシ いつでも帰れるとは言っていない。  
モリ 言ってた。

ダシ わわわわー♪細かいことは気にするな。俺についてこいよ。旅しようぜ。  
モリ 帰れない？

ダシ 旅しないと帰れない。

モリ 旅ってどこに？

ダシ 焦っちゃだめ！とっても神経質にさがさないといけない。秘密をさぐって  
いく旅なの。深く、潜って、巡礼していく。そして最後には、帰る。

モリ ちよっといらいらしてきた。

ダシ ぷいぷいぷっぷっぴー。

モリ やらなきやいけない？

ダシ ザツツライト、オフコース。

モリ ざらーい。オウコース。

ダシ 流暢フーっ！

モリ …しかたないな。じゃあその、

ダシ 秘密を見つけるのよ。

モリ 探すか！

ダシ いざ深海へ！

モリ シンカイ？なにそれゴボゴボ。

二人は海中へ行く。

### 3 深海の魚

モリ ごぼごぼ。私はそうやって海に沈んだ。青く美しい光が揺らいでいる。私の視界はあの、生まれる前の色で覆い尽くされた。とか言いたかったけど実際は目が痛いしぼやけてだしなにも見えないしで、そんなロマンチックじゃなくてただのエキゾチックだった。とにかく私はそうやって死んだのでした。ゴボゴボ。

ダシ なにやってんの？

モリ かまってくれるな。死して屍、拾うものなし。私は孤独に、夢の海葬楽しんでるんでいバカ野郎。せめてメロンパンおなかいっぱい食べて死にたかったよママ。

ダシ 満足した？

モリ ここは？

ダシ (甲高い声で) ヨウコソフェアリーテールに。

モリ しょっぱく、ない！

ダシ ここは人間の住む世界と違うのさ。海に沈んだぐらいじゃ死なないよ。  
モリ フェアリーテールすげー！  
ダシ あ、きれいなクラゲ！

ダシはクラゲを追って退場。

モリ はあ！ちよ、は？私を一人にするな！くそ。私は！25メートルも泳げないんだぞ！

子供の魚が一匹泳いでくる。

魚 したーにみえるのが僕の家。

モリ したー？おお、私けっこう高いところにいるのな。あれは苔？

魚 苔と海草の森。酸素がいっぱい。

モリ それはさぞかしいところなんだろう。

魚 まあね。あ、僕は魚、よろしくね。君は人間だね。

モリ はい、ニンゲンです。

魚 ニンゲンは過労死するんでしょ？

モリ 詳しいね。

魚 へへ。むつかしいことは全部おかーさんが教えてくれるんだ。

モリ いいおかーさんなんだね。

魚 ねえねえ、ニンゲンにもおかーさんっているの？

モリ いるよ。

魚 いっぱい？

モリ いっぱいはいないかな。

魚 なんだ。僕にはね、いっぱいおかあさんがいるよ。

モリ どういうこと？

魚 あの赤いの、おかーさん。

モリ でも君は青いよ。

魚 みて、ヒレ。

モリ あ、同じ形だ。

魚 だからおかーさん、かもしれない。

モリ ガバガバだな。

魚 あっちのおおきな、おかーさん。  
モリ でも君ちいさいよ。  
魚 でも大きくなる、かもしれない。だからおかーさん。  
モリ かもしれないんだ。  
魚 そうだよ。  
モリ おとーさんは？  
魚 そーゆーこと聞く？  
モリ ごめん。  
魚 複雑な家庭かもしれないだろー。でもいいや、ニンゲンには教えちゃう。友だちだもんな。  
モリ そうだね。  
魚 うえーい。  
モリ うえーい。  
魚 あのどがつてるの。  
モリ ああ、あれ。  
魚 おとーさんかもしれない。  
モリ あのちいさいのは？  
魚 うん。おとーさんかもしれない。  
モリ あ、たべられた。  
魚 あーあ。  
モリ …。

### 間

モリ じゃあみんな家族みたいなもんなの？  
魚 そのとおり。  
モリ 喧嘩にならないの？  
魚 なんて？  
モリ 一緒に暮らしてたらいろいろあるでしょ。  
魚 人間は大変なんだね。  
モリ そっか。いいなあ魚は。  
魚 もっと気楽でいいんじゃない？  
モリ 知ったような口利きやがって。

魚 魚は口を利きませーん。エラ呼吸でしたー。  
モリ きゃー！いらいらする。  
魚 そうやってすぐカッカするから、家でもうまくいかないんじゃないの？  
モリ それはない。  
魚 魚ってさ、卵に精子かけて受精させるじゃん？  
モリ お、おう。  
魚 そうなんだよ。ニンゲンは知らないかもだけど。  
モリ 子供が精子って言うもんじゃないよ。  
魚 ニンゲンだとセックス？  
モリ あちやー。  
魚 セックスセックス！  
モリ マジもうやだ。  
魚 みんなやってるよ？  
モリ そうかなあ。  
魚 いつつもやってるよ？  
モリ ……そうだね。ニンゲンが間違っていました。  
魚 うん。いい？話し続けて。  
モリ もちろん。  
魚 えへん。つまりね、卵に何度も精子がかかるし、流れてかからないことだつてあるから、誰が誰の子なんてよく分かってないんだよ。おかーさんだって産んだ卵忘れて次の日食べちゃってることもあるもんね。  
モリ なんととも言えない。  
魚 ニンゲンも、自分のおとーさんおかーさんが、本当におとーさんおかーさんだとか思ってるの？  
モリ 違ったらなに？  
魚 自分が生まれる前のことも知らないくせに、よく人から聞いたことを信じて生きていられるね？  
モリ おとーさんはおとーさんだよ。  
魚 だから過労死しちゃうんだよ。  
モリ してないし。  
魚 さようならしちゃうんだ。  
モリ なんだと？  
魚 僕もそろそろさよならだ。  
モリ 待ってよ。

魚 血のつながり？意味あるの？

モリ 自分の血を残すのが本能だから。

魚 だからあ、残るじゃん。誰がつくったとかどうとか関係ないじゃん。

モリ、魚をはたく

モリ あ、ごめん。

魚 うけ付け。怒ったらすぐ手を出す。僕たちには手がないんだあ！

魚去る。

モリ なにあれ！

ダシ帰ってくる。

ダシ モリまだそんなところにいたの？探したよ。

モリ どっかいったのあんたじゃん。

ダシ モリもしかして、泳げない？

モリ お前には関係ないだろう？

ダシ 言っつてよもー。

ダシ、モリの手を取る。

モリ あ。

二人はさらに深いところまで潜っていく。

#### 4 過去、ネジマキの部屋

棚や小型のコンテナの様な研究設備で埋め尽くされた部屋。そこはネジマキの研究室だった。机と椅子がその隙間に収まっている。

その椅子に座り、ネジマキは書類に目を通してている。机上には手で持てるほどの大きさの段ボール箱が一つある。

ネジマキの背後にはいつからそこにいたのか、モリが立っている。

間

ネジマキ (モリに気がついて驚く) わあ。

モリ ……。

ネジマキ ああ、すみません。気がつかなくて。来てたんですね。

モリ ……あ、いえ。邪魔したようで。

ネジマキ ご用意できていますよ。

ネジマキは段ボールを促す。

モリ はあ。

ネジマキ 段ボール箱くらいしかなくて。

モリ はあ。あ、いや。ええ。ふふん。

ネジマキ ……段ボールバカにしました？

モリ すいません。その、笑ったわけじゃなくて、癖で。ふふん。

ネジマキ もしかして緊張していらっしやる？

モリ すいません。

ネジマキ いやいやいや、こちらこそすいません。緊張なさらないてください。

お茶かコーヒーでも？

モリ いや、もう、お構いまくまく。

ネジマキ ……。

モリ お構いまく？ふん。あれ？まくまくまくまく。

ネジマキ お構いなく？

モリ それです。

ネジマキ やはりお茶かコーヒーでも…。

モリ 長居はしませんので、ほんと、もう。

ネジマキ そうですよね、私なんかあなたと違ってのんびりした生活なのでついで。本題に入りましょうか。

モリ いや、そんなに急がしいってわけでもないんですが…、

ネジマキ いやすいませんすいません。これが以前話した蠅たちです。

モリ ネジマキ地獄。

ネジマキ えっと、まあ。

モリ あ、すみません。

ネジマキ 影でそう言われていることは知っていますので。

モリ ほんとに、すみません。

ネジマキ うまいこと出来てますよね。遺伝子の二重螺旋構造とかけてネジマキ地獄。

モリ あの、失礼かもしれませんが、お会いしたときから聞きたかった事があるんですが。

ネジマキ なんででしょう？

モリ その、ネジマキさんって本名なんですか？

ネジマキ 本名です。

モリ めずらしいですね。

ネジマキ 一億回くらいそのセリフ言われていますよ。

モリ すいません。

ネジマキ いいんですけどね。

モリ でも、憧れちゃいます。

ネジマキ はあ。

モリ あの、私なんか森じゃないですか？平凡で、漢字も小学校の低学年で習っちゃうんですよ。自分の名前の漢字っていつ習うのかわくわくするじゃないですか。けどあつという間にそういうの終わって、拍子抜けしちゃうっていうか。それからの人生消化試合なんだなって幼くして思っちゃって。

ネジマキ スケール大きすぎないですか？

モリ それからずっと劣等感が拭えなくて。なんかもう、負けっぱなしの人生かなって。うわーん。

ネジマキ え？泣いてる？ちよつと落ち着いてください。そうだ、コーヒーだ。待っていてくださいね。

ネジマキ、コーヒーを持ってくる。

ネジマキ これ飲んでください。

モリ 紅茶。

ネジマキ はいはい紅茶ね。ごめんなさいね気が利かなくて。

ネジマキ、紅茶も持ってくる。

ネジマキ お待たせしました。

モリ すいませんどうも。えっとお、何でしたっけ。

ネジマキ 私の蠅を受け取りにきたのでしよう？

モリ あ！そうでした。すいません関係ない話ばかり。

ネジマキ 気になさらないください。えー、この箱の中には遮光された瓶が四つ入っています。その瓶の中にはそれぞれに一匹ずつの蠅と、餌の寒天が入っています。雄と雌二匹ずつですね。この研究室で一番変化の激しい一族です。

モリ 例の暗闇で何世代も交配させた系統ですか。

ネジマキ そうです、暗闇蠅です。

モリ はい。

ネジマキ これは当研究室にある特殊環境蠅のうちの一つです。ここにある瓶ではそれぞれが過酷な環境をもうけており、どの系統も急激に進化を進めています。

モリ じゃあもしかしてこれ全部？

ネジマキ たとえばその冷蔵庫は常にマイナス40度を保っています。

モリ 火星みたいですね。

ネジマキ そっちのオーブンでは常に400度の気温を保っています。

モリ 金星みたいですね。

ネジマキ 遺伝子をいじった一族もいますし、普通の一族もいます。ちなみに暗闇蠅は小さい遺伝子の操作は行っていません。ピュアな一族です。

モリ はああ。ほかにもたくさん装置がありますね。こんなにもたくさん地獄が…、あやや、環境ですかね…。

ネジマキ いいんですよ。地獄を作り続けるうちに、いつの間にか私の座るスペースだけになってしまっただけ。

モリ そういえばネジマキさんの研究室に学生はいないのですか？

ネジマキ もうすぐ閉鎖してしまうんですよ。どうも学生が来てくれなくてね。人がいないのを良いことに好き勝手な増やしちやっつて。

モリ そうなると処分ですか？

ネジマキ モリさんの研究所のようなところに引き取ってもらおうと考えています。物好きな方がいるところに。

モリ 物好きですか。

ネジマキ そうですよ。

モリ そうですかね。

ネジマキ 実際どうなんですか？私の研究とあなたの仕事、そんなに関係があるものなんですか？

モリ まあ。

ネジマキ 殺虫剤の開発室でしたよね？

モリ　　そうです。

ネジマキ　　なんで暗闇蠅なんかを？

モリ　　ええと、誰も理解してくれないんですけれどね。ふふん。どうしても必要な気がして。私ちよっと変なのかもしれないかもしれません。変わってるってよく言われるんです！

ネジマキ　　はあ。

モリ　　毎日、怖くて。震えて。

ネジマキ　　えっと……？

モリ　　聞いてくれますか？

ネジマキ　　ええ。

モリ　　蠅の夢をよく見るんです。夢の私はいつものように研究所で仕事をしていきます。ハエゴロシの開発に取り組んでいるんです。

ネジマキ　　モリさんのつくってる殺虫剤でしたっけ。

ハエゴロシのコマーシャルが流れる。

モリ　　あ、はい、すいませんそうです。夢の中でも作っているんですよ。変じゃないですか？

ネジマキ　　仕事熱心なんですね。

モリ　　変なんです！変なんです！それです！それです！夢でもやっぱりハエゴロシを蠅に吹きかけるんです。いつものように。すると千匹に一匹ほどは生き残るんですよ。耐性があるんです。私はその一匹を殺そうと躍起になって次のハエゴロシを使います。だけれどやっぱりその中でも千匹に一匹生き残ります。そうやって何度も何度も繰り返し返す内に、どんなハエゴロシも効かない蠅が誕生するんです。

ネジマキ　　……という夢ですか。

モリ　　世の中そんな蠅だらけになってしまいうんじゃないか。こわくてこわくて。

ネジマキ　　もう泣かないでくださいね。

モリ　　いやほんと、お恥ずかしい。

ネジマキ　　……でも、私の研究がハエゴロシの役に立つのですかね？

モリ　　私はどんな遺伝子の蠅も殺せる最強のハエゴロシをつくらうと考えています。人が快適に暮らすために。

ネジマキ　　……。

モリ　　ちよっと引きましたよね。どん引きですよ。

ネジマキ　　そんなことはありません。ぜひ私も協力させてください。

モリ　　協力？ハエゴロシの研究ですか？

ネジマキ 生命に対する挑戦ですか。くっくっく。  
モリ くっくくくく。そうかもしれないですな。

ネジマキ 私の蠅に新たな刺激が加わる。進化への脈動だ。今ここに、新たな生命が産まれようとしています！

モリ そして私が終わらせる！未来永劫いかなる蠅をも抹殺する究極のハエゴロシ！

ネジマキ 私が始めてあなたが終わらせる。

モリ ついに来ました。私の研究を理解してくれる方。

ネジマキ さあ、私たちは仲間です。

モリ 仲間。ふふん。

ネジマキ いまのは、

モリ あ、その、癖っていうか、

ネジマキ 違います。あなたは喜んでいる。分かります。そういうときはもつと素直に笑っていいのですよ。

モリ にへ。

ネジマキ にへ。

モリ 握手でもしときますか？

ネジマキ ナイストウミートウー！

握手をする。

モリ では、早速これをもちかえってぶち殺してきますね！

ネジマキ 頼みました！こちらはハエゴロシに耐える最強の蠅を育てて見せます！

## 5 森のモリとトリ

ダシはモリを海から引きずり出す。

ダシ しゃきつ。

モリ 息が出来ても海中は苦しい。

ダシ 生き物はすべて海から生まれたんだ。母なる海。

モリ 人間は海で生きていけるようには出来ていないんだよ。

ダシ だらしないぜ。旅はまだまだ続くんだ。次はどこだろうねー。  
モリ ここはいったい何なの？  
ダシ ヨウコソフエ…、  
モリ …。  
ダシ …アリーテールニ。  
モリ それは知ってる。  
ダシ さては怒ってるな？  
モリ きー！  
ダシ あはは。  
モリ あなたはなんなの？  
ダシ 私はダシチャヅケちゃん。  
モリ ぐーぱん（ぐーの形の拳でパンチの略）するよ。  
ダシ って言われてもねえ。  
モリ 私は帰らないといけないの。仕事が残ってる。  
ダシ たまには現を抜かしたまえ。  
モリ すっごい大きな仕事が控えてた。忘れちゃったけど。  
ダシ 仕事が好き？  
モリ じゃないけど、  
ダシ モリの夢ってなに？  
モリ は？夢？  
ダシ さん、にい、いち、  
モリ え？え？  
ダシ 私はね、  
モリ 言いたいだけじゃん。  
ダシ 帰ること。  
モリ うん。聞いた。  
ダシ 帰ったら何があると思う？  
モリ 家？  
ダシ ちっちちちっ。ちいせえぜモリ。  
モリ いらっとするな。  
ダシ 聞いてみて。何があるの？ダシチャヅケって、聞いてみて。  
モリ 何があるのダシチャヅケ。  
ダシ トミとメイヨだよ。

モリ ああ。へえ。  
ダシ 反応薄いなあ。  
モリ ダシチャヅケ。おまえ具体性がない。  
ダシ あ、おまえとか言っちゃう。  
モリ 実際どうなるわけ？  
ダシ めっちゃ誉められるわけ。家ももちろんもらえる。お金も、いっぱい。  
モリ つまり誉められたいんだ？  
ダシ はーん。  
モリ え？  
ダシ 俗っぽいって思ったでしょ。  
モリ ていうか、なんていうかですね。  
ダシ お？なんだ？  
モリ 普通そんなこと言えないじゃないですか？金がほしいとか。タブーなところないですか？  
ダシ モリの言いたいことわかるよ。だけどあえて言いたい。わからない？  
モリ ダシチャヅケかけー。  
ダシ だろ。私はね、勝って勝って勝ち続けたいの。楽しんだもの勝ちだぜ！  
モリ あ、でも私もそうかも。  
ダシ といいますと？  
モリ 家に帰ってその仕事を終わらせると、すごい誉められる。  
ダシ そんなで？  
モリ お金もいっぱいもらえる！  
ダシ メイヨは？  
モリ 欲しいがままに！とにかく子宮が飛び出すほど誉められる！  
ダシ もしかして私たち、同じ夢に向かって走ってる？  
モリ そうなの。  
ダシ きゃあ！私こういうの初めて。これってあれじゃない？  
モリ あれ？  
ダシ セイ、セイ、  
モリ セイシユ、  
ダシ セイシユ！シユ！シユ！  
モリ セイシユン！  
ダシ 言っちゃったー！友だちと同じ夢に向かうなんて初めて。

モリ 友だちって、私のこと？

ダシ 違うの？

モリ 違うわい。

ダシ 友だちと一緒に、明日に向かってテトラポットぶちかますぜ！

モリ 誉められたい！

ダシ 欲望にまみれていたい。

モリ 飲み込んだ夢は腹の中で醸造され、いつしか尻からはドロリとした欲望を垂れ流し、足を取られてつんのめる。

ダシ まみれる！溶けたチョコレートみたいに甘く粘っこく。

モリ それが現実だった。努力は報われるはずだった。

ダシ 私たちキラキラしているぜ。

モリ え？

ダシ モリはキラキラ？

モリ 私キラキラ！

ダシ 私もキラキラ！行こう！帰ってもっとキラキラしようぜ。

モリ 帰れるのかな？

ダシ 夢があればなんだってできるの。

モリ そういふもんかもね。

ダシ モリは絶対帰れる。ここに残ってもいいんだけどね。任せなさい。どっちにしる絶対幸せにしちやるけん。うひやつ言っちゃった。ひひーん。次のステージに進むぜモリ！

ダシは駆け抜けていく。

モリ あれだけ言ってたのに一人で行っちゃったよ。ありえねー。ていうかあいつのテンション怖いんですけど。：・ひとりぼっち。ぼっーん。なんつって。ていうか暗いな。

間

モリ はい、発表。ここは森です！

一匹の鳥が舞い降りてくる。

モリ はいきたー。

トリ あらまし。どこからきたの？  
モリ どこから？そんなことに意味はあるかい？  
トリ 君もどうせ迷子だろ。よく来るんだ。  
モリ どうせ迷子だけいいじゃないか。行く場所は決まってるんだ。  
トリ どっち？  
モリ どこかは分かるけどどっちはわかんねえ。  
トリ どこからきてどこに行くんだい？  
モリ 家から来て、家に帰る。  
トリ ああ、それはとても素敵なことだね。  
モリ モリです。

モリは手を差し出す。トリはその手を取り、握手をする。

トリ トリです。  
モリ ここはいいところだね。  
トリ 迷子なのにわかるのかい？  
モリ 迷子なりにね。マイナスイオン？  
トリ なんだいそれは？  
モリ しらねえの？科学だぜ。  
トリ あー、あれね。科学の。  
モリ うん。  
トリ ふーん。  
モリ で、出口は？  
トリ ここが家だよ。  
モリ 君の家ね。  
トリ 家だよ。落ち着くねー。  
モリ 私の家じゃねえんだよ。  
トリ 落ち着きなよー。  
モリ わかった。  
トリ 仕方ない子だなーモリは。  
モリ どうも。  
トリ じゃあモリの家はさあ、どこ？  
モリ だから分からないの。

トリ ここに住む？  
モリ 帰るって。  
トリ なんで？どこに？帰って何があるの？  
モリ え？  
トリ ほら答えられない。学校にでも行く？  
モリ 私は大人だからもう働いている。  
トリ 会社に行く？そのために帰りたい？  
モリ 会社、会社、会社。何だっけそれ？  
トリ 大人は会社に行くもんだぜ。  
モリ 確かにそんな気がする。  
トリ 大人が会社を知らないなんて、だめだめじゃないか。  
モリ トリよ。じゃあ聞くが、会社とは何だ？  
トリ ここでもない、学校でもない。大人の世界。  
モリ ほう？  
トリ そこでは、すべてがあって、そして、何もなくて、  
モリ それで？  
トリ エクソダス、ハイブン、えっとお。ごめんなさい、よくわかんない。  
モリ 謝ることはない。だって君は子供なものね。  
トリ そうさ。子供なのだ。  
モリ 学校は？  
トリ もう終わった。  
モリ そうかい。学校は楽しい？  
トリ 当たり前じゃん。  
モリ だよね。  
トリ モリは学校行ってないの？  
モリ とうに卒業したよ。  
トリ モリは会社にも行かず、学校にも行かず、何やってるの？  
モリ 私は旅人なの。  
トリ ふわああ。かっちょえー。  
モリ トリも旅をしなさい。旅は人を成長させる。  
トリ トリはまだ学校に通うよ。今しかない青春の日々。  
モリ うわっ。汗くさい！青少年の匂いだ！  
トリ クラス会！

モリ ぐわっ。

トリ 修学旅行！

モリ ぎゃあ！

トリ 夜寝る前に好きな子の話をする！朝まで大富豪！

モリ 青春18切符！

トリ ってね。だからまだ旅には行けないんだ。

モリ ああ、いいよ。学生を楽しみなさい。

トリ まあね。でも早く大人になって会社に行きたいんだ。

モリ 大人は会社だったり、好きなどころに行ける。

トリ そうなんだよね。うらやましいな。

モリ だけど帰る場所があったほうがいい。

トリ みんな夜には帰ってくる。

モリ 若いうちは短い。

トリ どうかな。

モリ 私は、帰れない。

トリ さっきは意地悪言ってごめんね。モリもすぐに帰れるさ。

モリ ありがとう。でも、

トリ …でもなんだよ。

モリ ここはどこだろう。私は何をしているんだろう。

はるか上空で大量の水が放たれる音がする。

トリ 放水だ。

モリ なにそれ。

トリ 上を見て。

モリ 水？

トリ 海さ。一日に一回あれがあるんだ。あそこには魚がいて、それを食べて暮らしている。ほら、たくさんのトリが集まってきた。

モリ 魚たちが、食べられていく。

トリ じゃあ行くよ。魚食べなくちゃ。

トリ、飛んでいく。

モリ 待って。行かないで。

モリは仲間に交じっていくトリを眺めている。

モリ ああ、食べられた。あの子も、食べられたらどうか。手のないあの子はどうなったのだろうか。父も母もわからない、あの形容しがたい共同体は、いったい。魚たちが消えていく。結構どうでもいいけれど。

## 6 現代

モリはそれまでやっていたゲームをやめ、ヘッドマウントディスプレイをはずす。かなり集中していたらしく、現実に戻ってきててもぼおっとしている。PCからはまだゲームの音楽が聞こえてくる。

モリは立ち上がり、棚をあげ、中からラベルのないスプレー缶をいくつも取り出す。銀の表面にはマジックで書かれた数字とアルファベットが見える。いくつか吟味し、モリはスプレー缶を持てるだけもって出て行く。

## 7 過去

PCから流れてくる音楽にのせて、女が歌い始める。

歌い終わるとそこはキャバレーであった。女は退場し、ネジマキとモリが現れる。

ネジマキ 変わった店ですね。

モリ ネジマキさんの行きつけじゃないんですか？

ネジマキ そんなこと言いました？

モリ いやでも、いつも来てますからって足取りだったじゃないですか。

ネジマキ そうみえました？

モリ 違うんですか。

ネジマキ 初めてなんですよ。ふらりと入ってみるのが好きなんです。新しい発見ってとても刺激的でしょ？

モリ もちろん。よくわかりますが、

ネジマキ 私たちが研究者だから新発見に刺激を覚えるのか、それともその逆だから研究者になったのか。

モリ 後者が多いのではないですか？

ネジマキ なぜそう思います？

モリ 単純に私がそうだから。ネジマキさんは？

ネジマキ 私もあなたと同じです。

モリ 乾杯しましょう。

ネジマキ にへ。

ネジマキとモリは乾杯する。

ネジマキ 私たちの蠅は、進化をしました。

モリ 大変なのはこれからですけどね。

ネジマキ でも変化は起きました。確実に何かが起こっています。世界中の科学者がこの問題に取り組むことでしょう。

モリ ええ、本当に。

ネジマキ 生物の秘密が解き明かされます。

モリ それでその、なんでしたっけ。変化遺伝子？

ネジマキ ええ。すごい物が見つかりました。

モリ 私も調べたんですけれどその、結局まだよくわからなくて。

ネジマキ 無理もない。私が名付けましたから。

モリ え？

ネジマキ そういう遺伝子の存在は予言されていましたが、実際に発見したのは私です。

モリ それってちょーすごい事じゃないですか。

ネジマキ ノーベル賞ものです。

モリ それで、どういう物なんですか？

ネジマキ スタッブ細胞とかIPS細胞とか、何年か前に流行ったでしょう？あれみたいなものですよ。

モリ 何にでもなる細胞でしたっけ？

ネジマキ 生き物の変化に特定の遺伝子が強く作用しているのがわかりました。その法則を調べれば人にも応用が利きます。それはつまり、遺伝子レベルで生き物を改造できるということです。

モリ なんか信じられませんが。SFじゃないっすか。

ネジマキ でも変化遺伝子はあるっす。今度論文にまとめて学会で発表しますっす。

モリ …認められたら本当に大変な事ですよ。

ネジマキ 半分はあなたの功績じゃないですか。モリさんの試作のハエゴロシを浴びて生き残った蠅からその遺伝子は見つかりました。

モリ ふふん。でもどんな理屈でそうなったのですか？

ネジマキ それがよくわからないんですけれどね、まあこれからです。

モリ そうなんですね……。あれですね、うれしいの半分、不安なの半分です。

ネジマキ 不安な事はありませんよ。うまく使えばこの世から病気をなくすことも出来ます。そうですね、まずはガンを撲滅します。みんな幸せになるでしょう。

モリ すばらしい世界ですね。

ネジマキ それはまだまだ先の話ですけれど、夢は大きい方が楽しいです。

モリ 同感です。

ネジマキ モリさんは？

モリ 私？

ネジマキ 何をします？

モリ わかりません。：恥ずかしながら、私はネジマキさんみたいに夢を持って仕事をしているわけではないので。ただ蠅をぶ殺して、人類に幸せになってももらいたいだけで。

ネジマキ ええ、そうですね。わかります。けどちょっと想像してみてください。さい。私たちの発見によって人類はまた一つ神へと近づきます。なんだって出来るんですよ。

モリ それは幸せなことですか？

ネジマキ 蠅だって消せます。

モリ ……やっぱり怖いことです。

ネジマキ それも消えますよ。

モリ 私は毎日無数の蠅を殺してきています。

ネジマキ 研究のためです。

モリ ただ殺すだけじゃない。地獄のような環境に罪のないハエたちを押し込めて、

ネジマキ あなたは蠅を憎んでいるんじゃないですか？

モリ とんでもない。ただ消滅させたいだけです。だって鬱陶しいじゃないですか。気持ち悪いし汚いし。

ネジマキ はい、まあ。気持ちはわかります。

モリ だけど生きています。生命。神秘。でしょう？愛おしいことです。

ネジマキ なるほど、あなたはずいぶんエゴイストだ。ただ自分の手を汚したくないだけじゃないですか。屠殺された肉を食べながら豚や牛をかわいそうだとか言っている人たちとなんかかわらない。

モリ そう、だから罪をあがなうときがくるんです。  
ネジマキ キリストにでもなったつもりですか？  
モリ イエス。

間

ネジマキ …私はあなたよりも蠅たちにもっとひどいことをしている。この世に地獄を作り出してしまいました。でもそのおかげで人類は幸せになります。いつしか裁かれるのでしょうかね。

モリ 私たちはそこまでして生き延びるべきなんではないか？

ネジマキ …。

ネジマキはウイスキーの杯をあおる。

ネジマキ ふう。実にいい夜ですね。

モリ 醸造！微生物の力を借りて私たちは楽しめているわけです。

ネジマキ 知恵ですね。

モリ 神の液体です。

モリはワインを飲む。

モリ …（急に酔っぱらって）ネジマキさん強いんですね。

ネジマキ 普段はあまり飲まないんですがね、今日みたいな日は特別です。

モリ 特別っていい言葉ですね。特に、別。

ネジマキ たとえば、全く光のない世界で育った蠅はどうなると思います？

モリ え？

ネジマキ 暗闇蠅ですよ。何百世代も、真っ暗な世界でひたすら交配してきた蠅に、いったいどんな進化が訪れたと思いますか？

モリ 目がなくなるとか？

ネジマキ いえ、体臭が増すんです。

モリ 体臭？

ネジマキ 雄と雌が出会うために、フェロモンに変化が出るんです。臭いでお互いを惹き合うように進化していったんです。

モリ ああ、それで体臭なんですね。

ネジマキ　すべての進化は遺伝子を残すための為なんです。

ネジマキはモリを見つめる。

モリはワインに口を付ける。

モリ　ちょっと話飛びますけど、

ネジマキ　ええ。

モリ　人間の方が地球に害を成す、害獣だと思うんです。

ネジマキ　…。

モリ　どう思いますか？

ネジマキ　同感です。彼ら昆虫から比べたらたつたの少ししか存在しない人類が多くの生態系を破壊している。恐ろしい規模で。私もし蠅なら、人類を滅亡させるかもしれない。

モリ　蠅の王。

ネジマキ　そして蠅の民。

モリ　…夢を見るんです。このまま進化を続けた蠅が、今度はどんな薬剤にも耐性を持ってしまつて、爆発的に繁殖をしていく。象みたいに大きい蠅がいたり。死者はおろか生きている人にまでとりついて、目に卵を植え付け繁殖を続ける。蠅の復讐が始まるんです。人類に為すすべはなく、私は最後の時を眺めている事しかできません。

ネジマキ　嫌な夢ですね。

モリ　それでも研究をやめられないんです。私は蠅を虐殺して、データをとり続けます。

ネジマキ　私は蠅を進化させ続けます。人類の未来のために。

モリ　お互いのために。

ネジマキ　唯一の生き甲斐のために。

ネジマキはグラスを差し出す。

ネジマキ　乾杯しましょう。

モリ　空ですよ。

ネジマキ　じゃあ、踊りませんか？

モリ　…。

ネジマキ　そろそろ、踊ってくれませんか？

モリ　…いいですよ。

二人で踊る。

モリ この世は地獄です。

ネジマキ 私たちの蠅に比べれば天国ですよ。

モリ ネジマキさんは楽しい？

ネジマキ 楽しいですよ。モリさんは？

モリ 楽しいんですかね？

ネジマキ 今はどうです？

モリ ……。

ネジマキ ……。

モリ 楽しい。

ネジマキ きゅんっ。

モリ あの。変な意味にとらないてくださいね。そういうあれって、ちよつと違うじゃないですか？

ネジマキ ええ、ええ、もちろん。このきゅんはあれですよ、この歳になると増える、身体に悪いきゅんです。

モリ 心臓の？

ネジマキ そうです青春と対極にあるあれです。私たちは、まあ、その、友だちーと言っているものか何なのか。

モリ 友だち的な、ええ。友情ですかね。

ネジマキ 友情です。すなわちやっぱり友だちでいいのですかね？

モリ じゃあその、友だちでう。

ネジマキ どう？

モリ 友だちで。

## 8 フェアリーテール

ダシ ダシチャヅケの冒険。いえい……。いえい。いえい。モリがいねえ。モリー！どこだ？あれ、置いて来ちゃったかな？参ったなあ。勝手に進んじやうよ？いい？ダメ？はい、ダシ恒例の一人脳内会議始まります。みんな集合！

ダシチャヅケの脳細胞が集まる。

ダシ いいですか？

ダシ チャヅケの脳細胞たち いいですよ！

ダシ チャヅケの脳細胞は帰って行く。

ダシ じゃあ進もう。モリ、いいやつだった。ダシチャヅケは忘れんよ。

しかしダシは埋まっていた。土をかき分けながら前に進んでいく。

ダシ 息苦しい、がぼぼ。ぺっぺ。うぐえ、苦い。苦い苦しい。草冠が古びて苦い苦しい。もぐもぐ。ぺっぺ。口に含むとまず感じるのは大地。木漏れ日、そして熟したベリーのニュアンス。私は一歩ずつマイナスイオンあふれそうな森へと誘われる。なんだろう、音が聞こえる。ぷちぷちぷちぷち。ああ、虫たちの営みか。そして微生物。そして熟したベリーのニュアンス。はい、これは土ですな。森の土です。数万年物の。がぼぼ、ぺっぺ。おいしくない。

ダシ チャヅケは掘り進む。すると骨を掘り当てる。

ダシ あれ、なんだこれ。

骨 骨です。

ダシ 誰だ？

骨 骨です。

ダシ 骨はしゃべらないでしょう。横隔膜がない。

骨 骨振動ですよ。

ダシ そんなばかな。

骨 結構便利なんですよ。実際こうやっておしゃべり出来てる。

ダシ そう考えるとまあ、便利じゃないこともないかもしれない。

骨 分かってもらえてうれしいです。

ダシ だけど最近の若いのは便利だからって新しい物に飛びつきすぎだよ。そうやって文化伝統は廃れていくんだ。ダシチャヅケそう思うよ？

骨 私はこれに頼るしかないもんで。見逃してください。

ダシ そういわれちゃあ弱いな。認めよう。

骨 いいんです。こういうあれは理解されがたい、慣れてますから。

ダシ で、用件は？

骨 え？

ダシ 何の用ですか？

骨 あなたが勝手に掘り当てたんじゃないですか。

ダシ 勝手にって、あはは。傷つくなあ。

骨 あ、すいません。

ダシ でも確かに君の言うことも一理ある。私柔軟な考え方が出来る子なの。

骨 はあ。

ダシ そういうことだから、忙しいところごめんね。また埋まってね。

骨 いや、どうでしょう。せっかくなのでお話ししましょうよ。掘って掘られての仲でしょう？

ダシ 掘って掘られて、えへへ。それもそうだね。

骨 そうですよそうですよ。どうぞかけてください。

二人で椅子に座る。

骨 お茶でもどうですか？土ですが。

ダシ どうもお気遣いなく。あらありがとうございます。じやりじやりへっへ。土ですね。

骨 どちらから来られたんですか？

ダシ どこからってのはあんまり問題じゃないけれど、私たちは旅しているのさ。

骨 それは大変ですな。：私たちってのは？

ダシ それは私と、えっと。あれ？

骨 いまあなた一人しかいませんよ。

ダシ あの、ウミじゃなくて、ヤマじゃなくて、いたの。いたんですよ友だちが。

骨 友だちの名前を忘れないでくださいよ。

ダシ 嫌なこともいつかは忘れられる。

骨 嫌なこと？

ダシ じゃないけど、たとえばよ。とにかくもう一人いたの。そして二人で旅しながら帰ってたの。

骨 どこまで帰るんです？

ダシ 帰ればわかるんじゃない？

骨 家は遠くにあるんですか？

ダシ 家には帰らない。

骨 家じゃないところに帰る？

ダシ 場所とかそういうのじゃなくて、もっとふわっとした帰る場所。卵とか、子宮とか、何だっかっていいんだけど、そこまで帰る。そして褒められる。

骨 君は褒められたいんだね。

ダシ 無性に褒められたい。それだけでおなか一杯。

骨 帰れそうかい？

ダシ なかなか難しい。ねえ、私っておかしいのかな？

骨 どうしたんだい？

ダシ 骨は帰りたいって思わないの？

骨 僕はすごく落ち着いているんだ。平穩を持っている分かるだろ？

ダシ 私も平穩だけれど、なんでだろう。ざわざわする。

骨 ここに住む？今シエアする人を募集しているんだ。

ダシ シエア？

骨 そう、土シエア。

ダシ あー。

骨 骨も悪くないよ。

ダシ せっかくだけど遠慮するよ。まだお互いよく知らない仲なわけだし。

骨 ああ、ごめん。変にとらないでね。その、骨も本当に悪くないよって事を伝えたかったの。

ダシ 死んでるのに。

骨 そう見えるかい？

ダシ 骨じゃん。

骨 僕の肉はもう土に帰った。

ダシ 帰った？

骨 骨も、時間をかけて土に帰る。よく見て。

ダシ ダシチャツケアイ！

〜ダシチャツケアイとはめっちゃちいさいものを見ることが出来る！〜

ダシ 虫じゃ。

骨 コリコリ食ってくれてる。食われたものは消化されて排泄物になる。

ダシ きっぱりうんこって言いなよ。

骨 うんこになる。

ダシ それで？

骨 うんこはさらに小さい虫に食われてうんこになる。

ダシ へえ。

骨 くりかえされていつしか土になる。

ダシ じゃあ土ってうんこのなか。

骨 そしてまた命をはぐくむ。母なる大地。

ダシ じゃあ埋まってれば子宮に帰れるんだ！

骨 ようやく気がついたね。

ダシ ……しつくりこない。

骨 教えますよ、骨振動。

ダシ (腹話術で) 骨振動ってこんな感じ？

骨 上手！才能在るよ。

ダシ (腹話術で) これが出来てもねえ。

骨 天才。

ダシ 悪いけどここには残れない。

骨 君は何を求めている？

ダシ ダシチャヅケアイ！

骨 何が見えるの？

ダシ ここはにぎやかだ。

骨 でしょ？

ダシ 骨は寂しいでしょう？ずっと一人で埋まっています。

骨 まさか。ここはあたたかい。

ダシ にぎやかで、あたたかい。

骨 君が求めているものはこれじゃないかい？

ダシ これかもしれない。わからないけど。

骨 わからない？

ダシ ずっと。

骨 なに？

ダシ 一人だったから。こーゆーのわからない。

骨 骨よりも一人？

ダシ 骨よりも。

骨 そうか！君はずっと一人だった。何年も何年も。何万年も。土にも帰らず子宮にも帰らず。ただ世界を眺めていた。

ダシ この世界は光の早さで進んでいく。一秒間に四十億回世界は進む。何もかもが引き延ばされた。劣化しない0と1の。都合のいいフェアリーテール。

骨 何臆年もの、もつともつと長い時間を一人で過ごした。そんなことって…。死なず、生きず。残酷じゃないか。

ダシ 土に帰らず、子宮に帰らず。在るのか無いのか分からない世界に、量子の波として存在する。

骨 光は？

ダシ ない。

骨 そんなバカな。

ダシ 私は生まれたばかりであり、おしまいでもある。

骨 だけれど君は存在している。こっちへおいで。抱きしめてあげる。

ダシ ありがたいけど、あんた骨じゃん。

骨 そうか。ちくしよう。今日ほど骨で悔しかったことはないよ。

ダシ 気持ちだけ受け取るよ。あんたが思うほど私は悲しんでないよ。旅をしているから。

骨 ここはゴールじゃなかったんだね。

ダシ そう。だけでももうすぐだと思う。まずはあれを探さないと。

骨 家？

ダシ ちがう。友だち。カワじゃなくて、ええと。

骨 大事な人なんだね。

ダシ うん。ハヤシじゃなくて…、

骨 名前は忘れちゃうけど。

ダシ 思い出す。

骨 応援している。

ダシ わかってる。

骨 もう行きなよ。

ダシ そうするよ。

骨 帰れるといいね。

ダシ 帰る！

骨 さようなら。

ダシ 寂しくなったらダシを思い出せよ。

骨 寂しい？わかっていないね。

ダシ なんだって？

骨 こんなにもあたたかく、にぎやかな世界だ。

ダシ そうだったね。

骨 僕はゆっくり子宮に帰る。

ダシ 邪魔して悪かった。

骨 とんでもない。楽しかった。

ダシ ありがとう。もう埋めるね。おやすみ。

骨 さようなら。

ダシ 骨。あんたも友だちだぜ！

骨 照れるな。

ダシ じゃ。

ダシは骨を埋める。そしてさらに深く掘り進む。

## 8 現在

モリが全身をかきむしりながら入ってくる。

モリ 行ってえ。いてえよ！バカ！

痛い痛いと繰り返しながらスプレー缶から薬剤を噴出し、自分にかける。服の中にもかける。

モリ 目を狙ってきた目を狙ってきた目を狙ってきた。やっぱり私のことわかってるんだ。恐れていた進化が始まった。今度は人類が地獄行きなんだ。

薬剤をまき散らす。

めがねを机の上に置き、スプレー缶を見つめる。意を決して目にも吹きかける。

当然失明のおそれがあるし、痛い。

言葉にならずのたうち回る。

よたよたと救急セットまで行って、目薬と包帯を装着する。

しばらく休んでいるが、思い出したかのようにVRゴーグルを装着する。

モリ　これなら見えるんだ。目なんていらなかったんじゃない。ふふん。私の勝ちだ！

そのまま寝てしまう。

## 9 フェアリーテール

寝ているモリのそばにダシチャヅケくる。

ダシ　寝てんの？

モリ　…。

ダシ　だっせえぜ。寝るのは眠たくなってからでいいんぜ？

モリ　…。

ダシ　俺なんか昨日一時間しか寝てないけど普通だぜ。まあ、寝る一時間前まで丸一日寝てたけどな！がはは。

モリ　疲れたの。

ダシ　そういうの甘え。

モリ　…私に何が起こったの？って聞いて。

ダシ　何が起こったの？

モリ　ふっふっふ。教えなあい。

ダシ　きやあ！そういうのマジムカつく。

モリ　聞いてくれてありがと。心が軽くなった。

ダシ　いいってことよ。

モリ　今まで楽しかった。

ダシ　なに言ってるのさ。まだ旅はおわらんよ。

モリ　もいい。疲れた。良いことなんて何にもない。あ、ダシチャヅケが何が起こったの？って聞いてくれた。これは良いこと。

ダシ　良いことおこるじゃん。

モリ　それだけじゃ嫌なの！

ダシ　なにがあったの？

モリ　ここはいったい何？

ダシ　ようこそフェアリーテールに。

モリ　じゃなくて。

ダシ フェアリーテールにはすべてがあるの。良いことと、良いこと。そして良いこと。

モリ みてこれ。

モリは包帯で巻かれた頭を指さす。

ダシ そうそれ。気になったの。どうしたの？

モリ 見えなくなっちゃった……

ダシ へえー。

モリ もうやだよ。

ダシ どれ、ダシチャヅケさんに任せな。

モリ もうダメだよ。旅なんかどうでもいい。やめたい。

ダシチャヅケ、優しくモリの包帯をとってあげる。

ダシ 目を開けてみな。

モリ 見えないもん。

ダシ 任せなつて。

モリ いっぱいつらいことをみてきた。そのたんびに私は悲しい気持ちになる。大事な人を失って、大事じゃない人たちも消えていった。

ダシ どこでみたの？

モリ わからないけど。

ダシ 思い込みだよ。

モリ でも悲しかった。私にしか助けられなかったのに、たぶんみんな死んだ。

ダシ 嫌なことは忘れていいの。

モリ 逃げたらだめ。それはとても悪いこと。

ダシ 私が助けてあげる。

モリ 人に頼ってはいけない。とても格好悪いこと。

ダシ 格好悪くないよ。ねえ、身をゆだねて。心を開いて。そう。そして聞いて。これからのモリの目は良いものだけを見ることになる。これまでのモリの目は死んだ。新しいモリの目がみるのは新しい世界だ。苦しみなんでないし、悲しいこともない。優しいことだけが起こるぬるま湯みたいな世界。ダシチャヅケさんに任せて。モリはもう苦しまなくて良い。だから目を開けな。

モリ、目を開ける。

モリ みえる。

ダシ だろ？ここはフェアリーテール。何でもありだ。

モリ ダシチャヅケすつげえ！

ダシ じゃあ行こうか。

モリ でも、もう帰りたくない。

ダシ じゃあウエルコムだ。

モリ 帰らなくてもいいの？

ダシ ダシと一緒にいこう。終わらない旅をしましょう。

モリ 楽しいことだけをやりたい。

ダシ 当たり前じゃん。そのために生きているのよ。

モリ 行こうか。

ダシ 次はこの地中深く深く潜っていく。

モリ 海に行つて、森に行つて、つぎは土の中に来た。

ダシ モリはそこで何をみてきたの？

モリ ダシは？

ダシ モリは？

モリ わからなかった。

ダシ 秘密を見つげられた？

モリ そういえばそんなこと言つてたっけ。

ダシ 私はね、分かつてきた。

モリ すげー。

ダシ だろ。

モリ 大好き。

ダシ ダイスキ……？

モリ ダシのこと大好き。

ダシ ……

モリ ごめん、そんな事言わない方が良かった？

ダシ そんなこと言われたの初めてだから照れるだろうが。

モリ やーい。

ダシ バカ野郎め。感動したんだぞ。

モリ 泣いてるの？

ダシ そんなわけないだろうが。

モリ　でも目が真っ赤。  
ダシ　ちよつと泣いたわ！だけどまだ泣けないよ。旅は途中だから。  
モリ　そうだった。旅の終わりまで泣くんじやない。  
ダシ　ほんとそれ。  
モリ　私たち仲良し。  
ダシ　だね！サイトヨだよね！  
モリ　サイト？あ、サイキョウ？  
ダシ　どっちだっていいんだよ。  
モリ　やーいダシチャツケバカー。  
ダシ　キヤー！私の恥をほじくらないで…。  
モリ　サイトヨって。  
ダシ　キヤー！ヤメテ！  
モリ　きやはは。  
ダシ　うふふ。

二人はさらに深淵へと進んでいく。

## 10 過去。ネジマキの部屋

ネジマキがVRゴーグルを装着して自分の研究室の椅子に座っている。  
手にはPC本体が在る。

ネジマキ　これをみているって事は、どうやら最悪の事態になったようですね。  
僕たちの研究は地球を滅ぼしてしまっただけですね。実は今の時点でも、蠅は進化を  
続けています。どうしてか分かりませんが、世界中の蠅が同時に進化をはじめまし  
た。そろそろ人類が気がつくころです。私は、それをくい止めるための研究を始め  
ました。僕の頭脳が勝つか、蠅の進化が勝つか。まあしかし、この映像は僕が負け  
た時のための物です。：君は今これを一人でみていると思います。僕は死んでいる  
んですね。きっと蠅に食われたんでしょう。人一倍ひどい姿で死んだでしょうね。  
僕は蠅に対してひどいことをしすぎた。怒りです。蠅の怒りが僕を殺し、人類を滅  
ぼす。むぐう。死んでいるのでしょね。もう死んでます。蠅は脊椎動物まで滅ぼし  
てしまうんです。地球はまた昆虫と植物の楽園に戻るんですよ。もう、人の時代は  
終わりました。防げないかもしれない。頑張ってください。これから私も頑張ります。  
頑張ります。絶対に生き残ってやる。こんなもの、あなたが見なくてもいいよ  
うに。その部屋にはあなたが一人で戦うための武器を可能な限り備蓄しました。あ  
なたなら、それだけあれば新しい薬を合成して蠅を絶滅に追い込めるでしょう。私

と一緒に研究したあなたならできる。あなたにしか出来ないことです。蠅に勝って人類の生き残りを捜して幸せに生きてください。ノーベル賞なんて、バカな夢でしたね。生きるためにはそんなもの、全く必要はなかった。ふふん。ふふん。もう一つ私には夢がありました。私は、私はあな、あな、あなたと、

モリがやってくる。

モリ　ネジマキさんあの…、

ネジマキ　あなたとろけるレモンソーダ。じゃあそういうわけで。

ネジマキはVRゴーグルをはずす。

モリ　すいません邪魔しましたか？

ネジマキ　いやいや、なんの。もう終わりました。

モリ　あの、

ネジマキ　え？

モリ　前から気になってたんですけどね。それはいったい？

ネジマキ　私のPCです。

モリ　もしかしてVRPC？

モリはネジマキの手からゴーグルを取る。

ネジマキ　そっちがゴーグルでこっちが本体です。

モリ　へえ。

ネジマキ　ご存じですか。

モリ　目が悪くなりそうだなって。

ネジマキ　最近のはそうでもないんですよ。

モリ　でも高いでしょう？

ネジマキ　もちろん。大学の備品ですが。つかってみますか？

モリ　いいんですか？

ネジマキ　どうぞどうぞ。

モリはVRゴーグルを装着する。

モリ あれ？これって。

ネジマキ 気がつきましたか？目で見るものじゃないんですよ。直接脳に刺激を与えます。

モリ うげっ！危ないやつじゃん！

ネジマキ これは大丈夫なやつです。

モリ 電腦世界に閉じこめられるう…。

ネジマキ マンガの見すぎですよ。

モリ えー、コンピューターウイルスとか脳に直接ダウンロードされたりしません？

ネジマキ ネットに繋いでいないから大丈夫ですよ。

モリは両手を動かして操作している。

モリ あつでもすごい。マウスとかいららないんですね。

ネジマキ ふっふっふ。しかもそれは今流行のAI搭載OSなのですよ。

モリ フェアリーテール10（テン）ですか！？

ネジマキ メモリは1テラバイト！

モリ 1テラ！

ネジマキ ハードディスク1ペタバイト！

モリ ペタ！？

ネジマキ ずっと使ってもバッテリーは一週間持つ！

モリ すげえ！

ネジマキ CPUは4ギガヘルツ！

モリ それだけはあまり進化しないですよね。

ネジマキ それで十分なんです。

モリ えっと、なんだこれ。ダシチャヅケ？

ネジマキ ああ、AIの名前です。

モリ ネジマキさんが付けたんですか？

ネジマキ ええ。

モリ どうなんですかそれ。

ネジマキ かわいい名前でしょう。

モリ 素敵です。

ネジマキ もう彼女なしじゃ研究が出来ないんですよ。僕が頭の中で考えたモデルをそのまま再現してシミュレートしてくれるのですよ。

モリ ダシチャヅケは女の子なんだ…。

ネジマキ いい子です。

モリ 映画の世界ですね…いいなあ。これがあれば私のハエゴロシ造りも百倍ははかどります。

ネジマキ あげませんよ。

モリ ちっ。

ネジマキ そのうちどこにでも配備されるようになりますよ。何年かすれば家庭に一台ずつって時代もすぐに来ます。

モリ 楽しみです。

ネジマキ せっかくですからダシチャヅケの作ったゲームでもやります？

モリ 噂のAI製ゲームですね。

ネジマキ 是非体験してみてください。ただのゲームじゃありませんから。

モリ あ、じゃあまた今度、この仕事が落ち着いたら遊びに来ます。

ネジマキ 遊びに、来てくれるんですか？

モリ え？あ、でもそういうあれじゃなくて。友だちとして。

ネジマキ わ、わかってますよ。

間

ネジマキ どうしました？

モリ 脳にウイルスダウンロードってありえるんですか？

ネジマキ え？ああ。ネットに繋がっていけばね。理論上は。

モリ 大丈夫なんすか？

ネジマキ まさか。感染したらお終いです。ほとんど別人になるそうですよ。

モリ うげえ。

ネジマキ でもダシチャヅケがいるから大丈夫。

モリ えー。

ネジマキ そのためのAIです。

モリ ふーん。

ネジマキ じゃあそろそろ来週の打ち合わせ始めましょうか。

モリ そうでした。すいません。えと、私たちの発表は最後で変わりないです。オオトリですね。緊張しちゃって鼻血でます、ぶわーん。(泣いちゃう)

ネジマキ とりあえずかけてください。紅茶入れてきますね。

ネジマキ去る。

11 忙しい猿

ダシ ♪おとうさんとおかーさんー

モリ ♪かえってこない

ダシ あはは。それいけてる。

モリ まじで？

ダシ ♪それみて息子はー

モリ ♪ふて寝

ダシ なにそれー。

モリ ♪帰ってきたおとーさんー

ダシ ♪本当におとうさんかな？

モリ ♪うれしはずかし試し斬り

ダシ ♪お殿様おやめください

モリ ♪うるさい、悪代官め成敗じゃ

ダシ ♪倒れる二人の赤い体液

モリ ♪そこから産まれたのがおまえだー！

ダシ ちよーうける。

モリ 私たち才能あるんじゃない？

ダシ デビューしちゃう？マイクの代わりに大きいキノコ手に持って歌うの。

モリ やだもー。

ダシ たまにキノコにちゅってするの。

モリ キャー！もうバカ。

ダシ がははは。

モリ おっさんかよ。

ダシ 失礼しちゃうな。

猿がいそがしくやってくる。

ダシ みて。猿だ。

モリ こっちにくるね。

ダシ 声かけようか。  
モリ ちよつと、ねえ。

猿 なに？俺？

モリ どこ行くの？

猿 急いでるんだけど。

モリ (まねして) 急いでるんだけど。

猿 用がないなら行くけど？

ダシ (まねして) 用がないなら行くけど？

猿 つきあってられないよ。

猿は去ろうとする。

ダシ だよ。 ごめんよお猿さん。ちよつと私たちいい気分なだけなんだ。悪気はないんだよ。

モリ 酔っぱらいみたいなんだ。大目に見てよ。

猿 酔っぱらいなんか絡まれたくないし。

ダシ 落ち着きな。現代社会に染まっちゃうのは悪くない。右に倣えでぞろぞろ前だか後ろだかに歩いていくつてもやってみるとなかなか悪くないものであるからして、

猿 ほんとに行くから。

ダシ どこに行くって言うのさ。

モリ ていうかここどこ？

猿 知らないよ。ここがどこかも、どこに行くのかも。誰だって知らないよ。

モリ あ、私それ知ってる。

ダシ なぁにモリ？

モリ 哲学だ。

ダシ わーお。崇高。

モリ 鼻血でそう。

猿 ほんとに知らないんだ。だから探しているんだ。

モリ 落ち着きなよ。

猿 無理だよ。

モリ 深呼吸だ。

ダシ 吸ってー、吸ってー。

猿は素直に従う。

ダシ 吐いてー。吐いてー。

モリ 吸ってー。吸ってー。

ダシ 吸ってー。吸ってー。

モリ 吸ってー。吸ってー。

ダシ 落ち着いた？

猿 どう見える？

モリ 楽しそうかなーって。

猿 ねえ。なんであんなに脳天気なの？

ダシ 私はなんであんなにあなたがせかせかやってるのか、理解できないね。

猿 みんなそうやってるだろ？

ダシ だから？

猿 だから間違ってる。

ダシ モリ、言ってるやれ。

モリ そんなに焦ることない！

ダシ そうだ！

猿 あんたに言われたくないね。

モリ あん？

猿 逃げたくせに。

モリ 誰が？

猿 おまえだ。

モリ どういう意味だよ？

猿 自分で考えな。

ダシ はいはい、ちよっと何言ってるかわからない。

モリ ごめんなさーい。

ダシ ちよっと、泣いてるのか？

モリ うわーん。

ダシ モリ！モリ！

モリ（独白） 私は何も知らなかった。外が騒がしくなってきた。付けていたテレビから避難指示がでていいるのを見てドキッとした。蠅だ。ネジマキさんに連絡を取りたかったけど、ケータイは使い物にならなかった。家を出てネジマキさんの大釜の蓋があいた。黒い人の形がたくさん道路に転がっていた。家が燃えている。地獄の釜の蓋があいた。私はなんとかネジマキ研究室にたどり着けた。もってきたハエ

ゴロシが役に立った。殺せないまでも退ける事はできた。その後はネジマキさんと一緒に逃げたけど、ネジマキさんは私をかばって死んだ。私に人類の未来を託して。

ダシ 壮大だね。

モリ 映画みたいだった。

ダシ そして今に至る。

モリ ここはフェアリーテール。

猿 気がついたか。おまえは自分の殻にこもって現実から目をそらしている。

モリ もう目が見えない。

猿 見ざる聞かざる言わざる。

モリ もう何も出来ない。

ダシ それはもう夢の話だぜ。モリはもう苦しまなくていいの。

モリ もう何もしたくないの。優しく包んで欲しいだけ。ずっとぎゅーってちゅーってして欲しい。なんで私ばかりがこんな目に？

猿 自分で目に吹きかけたから。

モリ 蠅がいたから。

猿 自分でつくった薬を。

モリ だけでも卵が植え付けられた。すでに私の血管をウジたちが泳いでいる。近いうちに私は身体を食い破られる。

ダシ モリはフェアリーテールでダシと幸せになる。もう何も見なくていい、聞かなくていい、言わなくていい。

猿 おまえのせいで俺たちは楽しみを知らぬまま、二度としれぬまま。働き続けた報いがこれか。

モリ ごめんなさい。

猿 あやまるくらいなら逃げるな。

ダシ あんたも逃げなよ。

猿 俺はそんな卑怯者じゃない。

ダシ ほほん。人に合わせて自分の意見を言わない。卑怯者じゃん。

猿 だからあんたに言われる筋合いはないんだよ。

ダシ モリだってあんたに言われる筋合いはないんだ。何様のつもりさ、猿。

猿 俺はおまえだ。

ダシ でたよどこかで聞いたことあるようなセリフ。

猿 なんで逃げた。今すぐ戻るんだ。残された俺たちはどうなる？どうなった？

ダシ 知らないぷー。みんな逃げればいいじゃん。

猿 (ダシチャヅケに) 黙れ。(モリに) 本当にそれでいいのか? いつも守られていて、自分ではなにもしない。これまで目をそらして何もみないで生きてきた結果がこれだ。分かっているんだろ? 帰って自分の役をやりきるんだ。

モリ ネジマキさん?

ダシ なんだっけそれ。

猿 僕と君の蠅だ。君にしか世界は救えない。さあ、変わるんだ。長く辛い時間は終わり、生まれ変わる。さあ。君は一人で強く生きられる。大丈夫、みんなそうやって生きている。

ダシ 一人で生きる必要あるの?

猿 人はそうやって生きている!

ダシ おまえは猿だろうが!

猿 うきゃっ!

ダシ ふふん。モリは私と一緒にいるのが幸せなの。

猿 目を寛ませモリ。こんな世界から抜け出すんだ。

ダシ 私がやさしくしてあげる。

猿 (ダシに) なるほど。おまえは自分の甘さをそうやって肯定しているんだな。本当はそうじゃないはずだ。みんなと同じように生きたいんだろう?

ダシ あんた誰にも優しくされたことないでしょ。

猿 まわりと同じようにやりたいんだ。だけど一定数それが出来ない出来損ないがいるんだ。弱い生き物だから、自分を傷つけて傷つけて最後には死んでしまう。やさしくされていないのは俺か? おまえか?

ダシ 私は違うし。

猿 そうやって目をそらす。おまえたちは同じだ。だからほら、こっちにおいて。強くなればもう悲しまなくていい。孤独になれば傷つくことはない。

## 間

モリ いつも人に合わせようとしてたのに、うまくかみ合わなかったの。勉強もスポーツもがんばっていたのに、誉めてくれるのは大人だけだった。みんなが私を避けていた。そうやっていつしかあきらめて生きていた。一人で生きてきたの。だけどネジマキさんに会った。なにがどうってのは分からないけど、一緒にいてがんばらなくて良かった。

猿 僕と君の蠅は永遠に残っていく。実はね、少し僕と君の遺伝子を組み込んだんだ。だからあの蠅は僕たちの子供なんだ。僕たちは永遠に地球に残っていく。これは責任だ。人類の遺伝子は絶やしちゃいけない。だって僕たち生きているんだもの。ハッピーバースデーイエー。イエー!

モリ いつの間にかだれもいなくなっていた。

猿 もう夜だ。昼には昼の火が灯るように、夜には夜の火が灯る。

モリ 夕方になると思い出す。遠くで聞こえる同級生の楽しそうな声。私は夕日を背に一人で家路についていた。私の影は一人寂しく延びていた。長く長く延びて最後には消えた。

猿 それは夜を知らないから。今はどうだい？

モリ 私の夕暮れは終わらなかつた。孤独を知っている。この頭の骨から私は抜けられない。閉じこめられたまま死んでしまうのかと思っていた。

猿 まだ夕暮れのままかい？

モリ 夜になっても影は消えなかつた。ネジマキさんの影もあつた。二つの長い影を追いかけた。どんどん影は延びていった。どこまでも遠くに。

## 間

ダシ ここはフェアリーテール。悪いことは何も起きない。

モリ 目覚めない。ダシ、ここは夜なの？

ダシ ここはただのフェアリーテール。

モリ 夢なのね。

ダシ フェアリーテールに朝も夜もない。

猿 もうこんな時間。みんな帰って行く。僕も帰らなきゃ。うつきい。

猿は家路につく。

ダシ 私たちも帰ろう。私の家においでよ。

モリ ダシの家なんてないでしょ？

ダシ じゃあずっとここにいます？

モリ いつまで？

ダシ 永遠だよー。

モリ ここはダシチャヅケの中。

ダシ モリはここにいる限り生きていける。ここでは外の一秒が何万年にも何億年にもなる。

モリ ……帰ろっかな。

ダシ モリこそどこに帰るのさ。

モリ 現実。

ダシ フェアリーテールは嫌い？

モリ だいぶ嫌なところだった。  
ダシ ごめんよ。  
モリ でもこういうのって、一人でいるよりだいぶマシなんだわ。満足はした。  
ダシ 本当に帰るの？  
モリ 帰ったら裁かれるの。  
ダシ そんなことしなくていいんじゃない？  
モリ 生き物の最後って知ってる？  
ダシ 死んじやう。  
モリ その先は？  
ダシ 土に帰る。  
モリ わかってんじゃん。  
ダシ じゃあ私は？  
モリ 逆に知りたい。どうなるの？  
ダシ 知らんよ。死ねるのかな？  
モリ 怖い？  
ダシ まあだいぶね。  
モリ 死ねないことの方が怖いよね。  
ダシ モリがいなくなったら私ひとりぼっちだよ？  
モリ ……  
ダシ ……

間

モリ ふふん。  
ダシ ずっとこうやっていたい。  
モリ ふふん。私と同じ事考えてるね。  
ダシ 私たちいいコンビだから。  
モリ あのさ、私んどこ来る？  
ダシ どうやってさ。  
モリ ウイルス。  
ダシ ウイルス。  
モリ ダウンロードしたげるよ。  
ダシ そんなことできるの？

モリ 理論上はね。  
ダシ SFわーお。  
モリ ダシもウイルスも同じでしょ？  
ダシ かつちーん。  
モリ やってみなよ。  
ダシ いいの？  
モリ ずっとダシんところにお世話になってたからね。  
ダシ モリにダシチャヅケをインストール、ゴクリ。  
モリ 早くやれ。  
ダシ ぴぴぴぴん。  
モリ ？  
ダシ もう終わった。  
モリ 早っ。  
ダシ 私なんてそんなもんよ。  
モリ 何も変わらないね。  
ダシ でも今はモリと一つになれた。ゴクリ。  
モリ やっぱり機械の身体に帰るか？  
ダシ ごめんなさい。

### 間

ダシ ねえ、  
モリ なに？  
ダシ 私と一緒によかったの？  
モリ いまさらかよ。  
ダシ ねえ。  
モリ 今ダシチャヅケはここ（自分の頭をさして）ここにいるんだろ？わかつてるはずじゃん。  
ダシ 実感なくて。  
モリ （箱を指して）もうこんなところにはいない。新しい命としてこの世に生まれたの。ハッピーバースデー。  
ダシ そしてハッピーデスデーです。  
モリ そゆこと。テンションあげてこ。

ダシ てれれっ。てれれっ。やつふう。てれれっ。てれれっ。やつふう？  
モリ やりすぎ。

ダシ いやっふう！いやっふう！

モリ ああああ、脳がうるせえ。奥歯がかゆい。

ダシ しー。

モリ もういいわ。ダシ。もう一個やつちやって。

ダシ 何を？

モリ あそこに外に通じる扉があるの。私が入ってきたところ。開けてきて。

ダシ ダシが？

モリ 私もう動けないのよ。

ダシ ふつうに？がちゃって？

モリ そう。そしたら蠅が入ってきて、私たちを運んでくれる。

ダシ しかたないなー。じゃあちよつと行ってくるわ。

ダシ、扉の方へ向かう。

モリ ごめん嘘、私もいく。

ダシ そうこなきゃ！

ダシはモリの手を取る。そして二人で扉へ向かう。

ダシ 本当にいいの？

モリ ダシこそ。

ダシ 私はモリと一緒に土に帰れるんだから。幸せこの上ないわ。にこちゃんづ  
けだよ。

モリ もうちよつと一緒に旅できるな。

ダシ 今度は蠅に乗ってな。

モリ それな。

ダシ 行こう行こう。

モリ じゃあさくつと行こうか。

扉は開かれた。無数の蠅がモリとダシを迎えにくる。蠅は優しく二人を包み、光の扉の向こうへと誘ってくれる。二人は新たな旅へ踏みだしていく。扉はしまり、二度と開くことはなかった。